

# 副市長2人制に関する議案に対して、討論が繰り広げられました

## 議案第19号 鯖江市副市長定数条例の一部改正について

多様化する行政課題に的確かつ迅速に対応する体制の強化を図るため、副市長の定数を2人以内としたい。

反対



8名

- 東井議員：鯖江市の人口規模で、また4年間で6千万円以上の人件費をかけてまで副市長2人制とする必要はない。副市長をもう1人必要とするような大きな事業はない。
- 大門議員：副市長にかかる人件費を職員の採用増、待遇改善に充てるべき。十分に議論すべき案件であり、市長選挙で公約に掲げて市民に堂々と訴えるべき。
- 石川議員：数年前からある市の課題に対して、副市長が増えたからといって結論が出せるのか。歳入不足の中で副市長の人件費をさらに増やすことに疑問を感じる。課題を絞って対応に当たるのであれば副市長でなくてもよいのでは。

- 酒井議員：現状維持ではなく新しい風穴が開き、市政をいい方向に変える可能性に期待したい。
- 帰山議員：組織としてのマネジメント力を強め、課題に迅速に対応するための効果が期待できる。
- 江端議員：2人がそれぞれの役割を担い、また手を取り合うことで、諸課題に力強く取り組める。

賛成



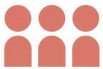
11名

可決

## 議案第31号 鯖江市副市長の選任について

副市長の定数を2人以内に改めたことに伴い、女性活力人権推進室長、教育政策・生涯学習課長、「めがねのまちさばえ」戦略課長、教育委員会事務部長などの要職を歴任されてきた服部聡美氏を選任したい。

反対



9名

- 大門議員：候補者は人格、識見ともに優れているが、もう1人は国や県から招く方が鯖江市のためになる。
- 東井議員：大きな課題のない今ではなく、現副市長の後任として就任すればよいのでは。
- 酒井議員：役職が変わったからといって子育て支援や女性活躍推進が果たせるのか。
- 帰山議員：内部ではなく、国や県、民間など、外部から人材を求めることが業務改善につながるのでは。
- 西野議員：停滞感のある現状を打破する必要がある、同様の立場の2人が副市長となることには慎重であるべき。
- 田中議員：内部昇格によるコスパの問題を考え、副市長の仕事を総括したうえでよく議論すべき。
- 石川議員：議会を混乱させる人事案件ではなく、すべての方が賛同できる人事案件を出して初めて効果が出る。今回の議案提出で議会を混乱させた市長の責任は非常に重い。

- 福原議員：迅速に事業推進を図るには、市の業務を熟知した市の職員からの選任が望ましい。
- 加藤議員：候補者の資質、力量に疑う余地はない。
- 堀川議員：人口減少という難題を抱えており、副市長が役割分担や協力しながら事業を進めることで成果が期待できる。

賛成



10名

同意



※他ページに関連記事があります (P.4 総務委員会、P.13 一般質問)